

5 おくのほそ道

名前

年 組 番

100点

1 次の古文を読み、あとの問いに答えなさい。

(2) 10点 他 4点×10

月日は百代の過客にして、行きかふ年も
また旅人なり。舟の上に生涯を浮かべ、馬
の口^③とらへて老いを迎^④ふる者は、日々□に
して□をすみかとす。古人も多く□に死せ
るあり。
(「おくのほそ道」より)

2 次の古文を読み、あとの問いに答えなさい。

5点×10

まづ、高館^①に登れば、北上川^②南部より流
る大^③河なり。衣川^④は、和泉^⑤が城をめぐり
て、高館の下にて大河に落ち入る。泰衡^⑥
が旧跡^⑦は、衣が関^⑧を隔てて南部口^⑨をさし固
め、夷^⑩を防ぐと見えたり。さても義臣^⑪すぐ
つてこの城にこもり、功名^⑫一時の草むらと
なる。「国破^⑬れて山河^⑭あり、城春^⑮にして草
青^⑯みたり」と笠打^⑰敷きて、時のうつるま
で涙を落としはべりぬ。
夏草^⑱や兵どもが夢の跡^⑲
卯^⑳の花に兼房^㉑見ゆる白毛^㉒かな 曾良^㉓：B
(「おくのほそ道」より)

(1) 【歴史的仮名遣い】——線①～④を現代仮名遣いに直し、すべてひらがなで書きなさい。

① () ② ()

③ () ④ ()

(2) 【対句】「月日は百代の過客にして」と対句(似た構成の言い方)になっている部分を抜き出ささい。

()

(3) 【語句の意味】——線⑤の意味を、次から一つ選びなさい。

()

ア 死んだ人々 イ 旅人たち

(4) 【内容把握】——線部が示す職業を、「」から選びなさい。

() 「 武士 漁師 船頭 馬子 」

(5) 【内容把握】文中の□には、同じ漢字が入ります。「」から選びなさい。

() 「 草 村 旅 山 」

(6) 【文学史】「おくのほそ道」のa作者、bジャンル、c 成立した時代を書きなさい。

a () b ()

c () 時代

(1) 【歴史的仮名遣い】——線①・⑤を現代仮名遣いに直し、すべてひらがなで書きなさい。

① () ⑤ ()

(2) 【助詞の省略】——線②を現代語に訳す場合、「北上川」と「南部より流るる」の間に補う助詞を、一字で書きなさい。

(3) 【語句の言い換え】——線③・④は何を言い換えていますか。古文から抜き出しなさい。

③ () ④ ()

(4) 【現代語訳】——線の解釈として適切なものを、次から一つ選びなさい。

ア 功名を一時も立てることができず、ただ草むらの美しい自然だけが残された。

イ 功名を立てたがそれも一時のことで、その跡はただの草むらとなってしまった。

ウ 功名を立てたことは、一時に生いしげる草むらのように仲間たちに広がった。

(5) 【俳句】A・Bの俳句の①季語、②句切れを書きなさい。(区切れなしは×と書くこと)

A ① () ② ()

B ① () ② ()

5 おくのほそ道

名前

年組番

100点

1 次の古文を読み、あとの問いに答えなさい。

(2) 10点 他 4点×10

月日は百代の過客にして、行きかふ年も
また旅人なり。舟の上に生涯を浮かべ、馬
の口^③とらへて老いを迎^④ふる者は、日々□に
して□をすみかとす。古人も多く□に死せ
るあり。
(「おくのほそ道」より)

2 次の古文を読み、あとの問いに答えなさい。

5点×10

まづ、高館^①に登れば、北上川^②南部より流
るる大河なり。衣川^③は、和泉が城をめぐり
て、高館の下にて大河に落ち入る。泰衡^④
が旧跡^⑤は、衣が関^⑥を隔てて南部口^⑦をさし固
め、夷^⑧を防ぐと見えたり。さても義臣すぐ
つてこの城にこもり、功名^⑨一時の草むらど
なる。「国破れて山河あり、城春にして草
青みたり」と笠打ち敷^⑩きて、時のうつるま
で涙を落としはべりぬ。
夏草^⑪や兵どもが夢の跡^⑫
卯の花に兼房^⑬見ゆる白毛^⑭かな 曾良^⑮：B
(「おくのほそ道」より)

(1) 「歴史的仮名遣い」——線①～④を現代仮名遣いに直し、すべてひらがなで書きなさい。

① () かかく () ② () ゆきかう ()

③ () とらえて () ④ () むかうる ()

(2) 「対句」 「月日は百代の過客にして」と対句(似た構成の言い方) になっている部分を抜き出しなさい。

() 行きかふ年もまた旅人なり ()

(3) 「語句の意味」——線⑤の意味を、次から一つ選びなさい。

(ウ)

ア 死んだ人々 イ 旅人たち

ウ 昔の人々 エ 旧友たち

(4) 「内容把握」——線部が示す職業を、「 」かを選びなさい。

(船頭)

「 武士 漁師 船頭 馬子 」

(5) 「内容把握」 文中の□には、同じ漢字が入ります。「 」から選びなさい。

(旅)

「 草 村 旅 山 」

(6) 「文学史」 「おくのほそ道」のa作者、bジャンル、c 成立した時代を書きなさい。

a () 松尾芭蕉 () b () 紀行文 ()

c () 江戸 () 時代

(1) 「歴史的仮名遣い」——線①・⑤を現代仮名遣いに直し、すべてひらがなで書きなさい。

① () まず () ⑤ () つわもの ()

(2) 「助詞の省略」——線②を現代語に訳す場合、「北上川」と「南部より流るる」の間に補う助詞を、一字で書きなさい。

(は)

(3) 「語句の言い換え」——線③・④は何を言い換えていますか。古文から抜き出しなさい。

③ () 北上川 () ④ () 高館 ()

(4) 「現代語訳」——線の解釈として適切なものを、次から一つ選びなさい。

(イ)

ア 功名を一時も立てることができず、ただ草むらの美しい自然だけが残された。

イ 功名を立てたがそれも一時のことで、その跡はただの草むらとなってしまうた。

ウ 功名を立てたことは、一時に生いしげる草むらのように仲間たちに広がった。

(5) 「俳句」 A・Bの俳句の①季語、②句切れを書きなさい。(区切れなしは×と書くこと)

A ① () 夏草 () ② () 初句切れ ()

B ① () 卯の花 () ② () × ()